

全国学力・学習状況調査の結果の分析を公表いたします。

本年度4月に実施された6年生対象の全国学力・学習状況調査の結果は、以下の通りです。

1. 国語・算数の調査結果より

全体としては、国語A（基本）は、全国平均にわずかに届きませんでした。国語B（活用）、算数A（基本）、算数B（活用）は、全国平均より大きく上回ることができました。

このことは、子どもたちの学ぶ意欲や、学習に対する集中力を高めながら、全職員で、めざす授業の共通理解を図り、組織的に取り組んできた成果だととらえています。

特に効果があった取組を、以下のように分析しています。

○「考える力と表現する力」を育てるための日々の授業における効果から

- ・一時間の授業の中で、自分の考えを書く、説明する活動を確実に位置づけたこと
- ・毎時間の学習の始めに、前の時間の学習と今日の学習を比較する「振り返り」の場、何ができるようになるか学習の目的をもたせる「めあて」づくり、その時間に学んだ学習内容をとらえさせる「まとめ」の場を大切にしてきたこと

○子どもたちの学ぶ意欲を高める効果から

- ・各担任が、子どもたちの「わかる」「できる」喜びや達成感を味わわせるために、日々、情熱と使命感をもち、指導の徹底を図ってきたこと
- ・わからなくてもあきらめずに最後までがんばる心を育ててきたこと

○基礎・基本の習熟・定着を図る取組の効果から

- ・モジュールタイムを1・2・5・6年生は年間20回、3・4年生は年間12回位置づけてきたこと（音読・漢字・計算・辞書引き・文章題・社会・理科等）
- ・朝の個別学習や、放課後学習の時間をとってきたこと
- ・校内漢字テスト（学期に1回）を実施してきたこと

○家庭と連携した取組の効果から

- ・家庭と連携した家庭学習の習慣化の取組を行ったこと<宿題忘れ0作戦>（学期に1回）
- ・ファミリー読書の取組を行ったこと（学期に1回）

以上、効果があった取組については、今後も取組の継続を図っていきます。

●課題と今後の指導の方向性から

課題については、以下のようにとらえています。

国語Aにおける、「話すこと・聞くこと」について、

- ・発達段階に応じた聞く力、話す力を整理し、段階に応じた指導を意識して行うこと
- ・相手意識を持ち、適切な言葉や文章を使って効果的に説明したり、話の内容を理解しながら聞き取ることができるように、話し方・聴き方のポイントを示して指導すること

2. 児童質問紙の調査結果より

全国平均より高い数値を表した項目については、学校通信で紹介させていただきましたので、ここでは、課題について、少しお知らせいたします。（「とてもそう思う」が少ない。もしくは「あまりそう思わない」が多い項目）

- ・1日どれ位テレビを見ますか？（3時間～4時間と答えた児童が全国平均より多い）
- ・家で自分で計画を立てて学習する。
- ・家で手伝いをする。

以上になります。特に、テレビについては、時間を決めて見るなど、保護者の皆様からも、お子様へのご指導や声かけ等、どうぞよろしくお願いいたします。